

TAMA市民塾 スポット講座のお知らせ

第2回

「多摩川の筏流しと筏道の旅」

—筏乗りが家路を急いだ筏道を行く—

in 国分寺

【講師】 原田 環爾 氏

多摩及びその周辺のむかし道・伝承地を訪ねて25年。その経験をもとに立川市民交流大学、ひの市民大学、東京国際大学、TAMA市民塾などで講演。ホームページ「多摩のジョギング道」、ブログ「多摩の道探訪記」を主宰。

【内容】 その昔多摩川の風物詩の一つは川を下る筏とそれを操る筏乗りの姿でした。奥多摩や青梅など山の地で切り出された丸太は、多摩川の上流で筏に組み上げられると、いなせなねじり鉢巻の筏乗りたちが巧みな筏さばきで多摩川を下りました。筏は大田区六郷まで下って木場の商人に引き渡されると、筏乗りは大金を懐に陸路村へ帰っていきました。彼らが家路を急いだ道筋は筏道として残されています。講座ではかつての筏流しの有様と、筏道を通った時に出会う風景、歴史、伝説、エピソードなどを解説します。



日時	2019年6月29日(土) 13:30~15:30 (開場13:00) (荒天時は中止とさせていただきます)	申込方法	当日会場にお越しください。 先着80名までとさせていただきます。
場所	国分寺労政会館(4F)第5会議室 西武・JR中央線 国分寺駅南口徒歩5分	受講料	無料
問合せ	多摩交流センター内 TAMA市民塾 TEL 042-335-0111 平日(9:00~16:00)		

広域的市民ネットワーク活動等助成事業紹介

TOKYOいなかフェスティバル in 日の出町

日時	① 2019年7月7日(日) 10:00~16:00 ② 2019年10月19日(土) 10:00~16:00
場所	① ひので肝要の里(日の出町大字大久野4089番地) (武蔵五日市駅→西東京バス松尾行き 肝要バス停下車) ② 日の出山荘(山の迎賓館)(日の出町大字大久野5270番地) (武蔵五日市駅→西東京バス福生駅行き かやくぼバス停下車徒歩30分)
内容	西多摩地域における、国際交流、伝統芸能をとらえて交流するイベントです。毎年開催場所(市町村)を変えて開催しており、今年は日の出町にて7月と10月に開催します。 西多摩にゆかりのあるアーティストによる音楽ステージ、開催地の特産品を使ったイベント限定の飲食コーナーなど、この日しか体験できない、味わえない空間を作ります。また、誰もが自由に参加できるワークショップ、会場周辺とのコラボ企画など、世代、国籍を超えて楽しめる、「新しいコト」に出会えるイベントです。
入場料・参加費	無料
主催	TOKYOいなかフェスティバル実行委員会
問合せ	TEL 080-2091-6781 (浦野) E-mail tokyo.inaka.fes@gmail.com



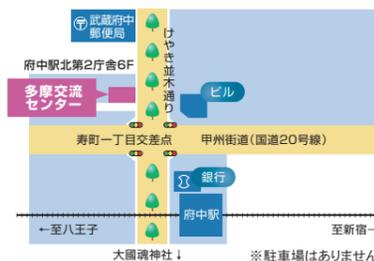
「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F
TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ 多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



ちょっと一息

とっておきの島しょの土産



八丈島



あしたば飴

八丈島の自然が育んだ明日葉の風味と美しい緑を損なうことなく作り上げた栄養豊かなキャンディーだよ。製造には、純粋な明日葉粉末と飴の原材料だけを使っているよ。



黄八丈サブレ

地元で愛されて30年、八丈島の特産品黄八丈の着物をモチーフにデザインされた本格サブレだよ。小麦粉・バター・砂糖・卵・塩などシンプルな材料だけを使っているよ。

今回紹介したお土産は、竹芝客船ターミナル内のアンテナショップ「東京愛らんど」(最寄駅はJR浜松町駅ほか)で販売しているから、ぜひ味わってみてね。
東京愛らんどホームページ(<https://www.tokyoislands-net.jp/>)でも、通信販売しているよ。
【情報提供】公益財団法人 東京都島しょ振興公社 TEL 03-5472-6546

編集後記

- まもなく令和最初の梅雨がはじまります。昨年は、関東甲信地方の梅雨明けが観測史上最速(6月)となる一方で、西日本では台風の影響により集中豪雨が発生し、甚大な被害をもたらしました。
 - 梅雨明け後は、記録的な暑さに見舞われました。埼玉県熊谷市で41.1℃を観測し、5年ぶりに日本最高記録を更新したのをはじめ、青梅市でも都内初となる40℃超えを記録し、各地で熱中症患者が急増するなど、地球温暖化に起因すると言われる被害が続出しました。
 - 時代を振り返ると、地球温暖化が世界的な問題といわれて久しくなります。最初に地球温暖化が問題となったのは、1988(昭和63)年にアメリカの科学者が発言したのが始まりといわれています。そして、1997(平成9)年の京都議定書や2015(平成27)年のパリ協定に基づき、国際的な枠組みの中で、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの抑制などの取組が進められてきました。
 - しかしながら、本年3月、気象庁が、2018年に国内の地上観測点や北西太平洋上の大気中の二酸化炭素を観測した結果、二酸化炭素濃度は過去最高を更新したと発表するなど、地球温暖化の抑
- 制は非常に難しい状況となっています。
- これまで、国・地方公共団体等では、省エネへの取組や再生可能エネルギーの普及などの温暖化ガス排出量を抑制する「緩和策」を中心に取り組んできました。しかし、最近では、気候変動の影響がすでに顕在化し、今後更に深刻化するおそれがあることから、その影響による被害を回避・軽減する「適応策」を「緩和策」と合わせて実施することが重要とされています。昨年12月には、気候変動適応法が施行され、国・地方公共団体等の関係者が一丸となって適応策を推進しています。
 - 当調査会では、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の一環として「気候変動への適応策に関する調査研究」を実施しています。この調査は、2018年度から2020年度にわたり行うもので、都内62市区町村が、それぞれの地域の特性にあった「適応策」の取組や適応計画の策定を目指すための活動を支援することを目的として取り組んでいます。
 - 新しい令和の時代となりましたが、現在から100年後あるいはその先も人や生物が安全・安心に暮らせる世界を目指し、地球温暖化対策に取り組んでいきます。(K. K.)